

第五號ノ要件ヲ履ミ且ツ證書カ第三者ノ手ニ存スルコトヲ疏明ス可キモノトス(三四四)而シテ其申立カ適法ニテ且證書ニ依リ證スヘキ事實ヲ重要ナリト認メタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ證書提出ノ期間ヲ定ム可キモノトス(三四五第一項) 第三者ハ舉證者ノ相手方ニ於ケルト同一ナル理由ニ因リ證書ヲ提出スル義務アレトモ第三者カ任意ニ證書ノ提出ヲ爲ササル限リハ其訴訟ニ於テ第三百四十一條ノ如キ結果ヲ生セシムルコトヲ得ス何トナレハ第三者ノ義務不履行ノ爲メ相手方ニ不利益ヲ蒙ラシムルコトヲ得サレハナリ而シテ舉證者カ強テ第三者ニ證書ノ提出ヲ爲サシメントセハ訴ヲ提起シ強制執行ヲ求ム可キモノニシテ(三四三)右ノ期間ハ此等ノ手續ヲ實行スルニ必要ナル時間ヲ斟酌シテ之ヲ定ム可キモノトス

右ノ期間中ハ辯論ヲ進行セサルモノナレトモ期間滿了前ニ於テモ舉證者ハ辯論續行期日ノ指定ヲ求ムルコトヲ得ヘク(一六九)相手方ハ舉證者ノ第三者ニ對スル訴訟ノ完結シタルトキ又ハ舉證者カ訴ノ提起、訴訟ノ繼續又ハ強

制執行ヲ遲延シタルトキハ訴訟手續ノ繼續ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス(三四五第二項) 期間滿了後ニ於テハ相手方ハ無條件ニ辯論續行期日ノ指定ヲ求ムヘキモノナリ舉證者ハ期間滿了後ト雖モ訴訟ヲ遲滯セシメサル限リハ其取寄セタル證書ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス(二七五)

第三者カ證書ヲ提出スルニ付テモ第三百四十八條第三百四十九條ノ適用アリ

(四) 證書カ第三者タル官廳又ハ公吏ノ手ニ存スルトキ

舉證者其使用セントスル證書カ官廳又ハ公吏ノ手中ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ證書ノ送附ヲ官廳又ハ公吏ニ囑託セラレンコトヲ申立テテ之ヲ爲ス可キモノトス(三四六第一項) 然レトモ當事者カ法律上ノ規定ニ從ヒ裁判所ノ助力ナクシテ取寄スルコトヲ得ヘキ證書ノ如キハ此手續ニ依ラス當事者自ラ例ヘハ判決ノ正本、謄本、戶籍簿ノ謄本、登記簿ノ謄本ヲ得テ之ヲ提出ス可キモノナリ(三四六第二項)

受訴裁判所ニ證書ノ存スル場合例へハ受訴裁判所ニ存スル他ノ事件ノ記録中ノ證書ヲ證明ノ用ニ供セントスル場合ノ如キハ證書ヲ表示シテ口頭辯論ニ於テ直チニ之ヲ取調フルコトヲ申立ツルコトヲ得ヘシ

證書ノ送付ヲ官廳又ハ公吏ニ囑託スル場合ハ官廳又ハ公吏カ之ヲ提出スル義務ヲ有スルヤ否ヤヲ問ハサルモノナルヲ以テ裁判所ハ其證書ニ依リ證ス可キ事實ヲ重要ナリト認ムルトキハ舉證者ノ申立ニ從ヒ其囑託ヲ爲ス可キ旨ノ證據決定ヲ爲ス可キモノニシテ其囑託書ハ裁判長之ヲ發ス可キモノトス(二七九、二八一ノ準用)

官廳又ハ公吏カ第三百三十六條ノ規定ニ基キ證書ヲ提出スル義務アルニ拘ハラス其送付ヲ拒ムトキハ第三百四十二條乃至第三百四十五條ノ規定ヲ適用ス(三四六第二項)

官廳及公吏ノ證書ノ送付ニ付テモ第三百四十八條及第三百四十九條ノ適用アリ

右(三)及(四)ノ場合ニ於テハ一ノ制限アリ即チ同一ノ係爭事實ニ關シ人證タルト鑑定タルト其他如何ナル證據方法ニ關スルトヲ問ハス既ニ一度證據決定ヲ爲シタル後ニ於テ第三百四十二條及第三百四十六條ノ規定ニ從ヒ書證ヲ申出タル場合ニ於テ證書取寄ノ手續ノ爲メニ訴訟ノ完結ヲ遅延スルニ至ル可ク且裁判所ニ於テ原告若クハ被告カ訴訟ヲ遅延スル故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニヨリ書證ヲ早く申出テサリシコトノ心證ヲ得タルトキハ申立ニ因リ其書證ノ申出ヲ却下スルコトヲ得ルモノトス(三四七)

#### 第四 證書提出ノ義務

證書提出ノ義務ハ證人鑑定人ノ義務ト同様裁判ノ公正ヲ得ル目的ヲ以テ國家ノ司法ヲ補助セシムル爲メ證書ノ所持人ニ課シタル公法上ノ義務ナリ、證書提出ノ義務アル場合左ノ如シ

(一) 訴訟ノ相手方カ證書提出ノ義務ヲ負フ場合

(イ) 舉證者カ民法ノ規定ニ從ヒ訴訟外ニ於テモ證書ノ引渡又ハ其提出ヲ

求ムルコトヲ得ルトキ(三三六第一號) 例へハ證書カ舉證者ノ所有ニ屬シ又ハ舉證者ニ使用セシムルコトニ付テノ契約アル場合ノ如シ

(□) 證書カ其趣旨ニヨリ舉證者及相手方ニ共通ナルトキ(三三六第二號)

例へハ舉證者及相手方ノ間ニ於ケル法律關係ヲ記載シタル場合又ハ證書カ當事者雙方若クハ舉證者ノ利益ノ爲メニ作成セラレタル場合ノ如キヲ云フ

(ハ) 相手方カ其手ニ存スル證書ニシテ其訴訟ニ於テ舉證ノ爲ニ引用シタルトキ(三三七)

相手方カ之ヲ引用シタルトキハ口頭辯論ニ於テスルト準備書面ニ於テスルト同一審級ニ於テスルト他審級ニ於テスルトヲ問ハス又其提出後相手方ノ承諾ヲ得テ拋棄シタルトキト雖モ其證書ヲ提出スル義務アリ

(ニ) 商業帳簿ナルトキ(商法二七ノ二) 商法第二十七條ノ二ハ訴訟法ヲ補充シタル規定ナリ

(二) 第三者カ證書提出ノ義務ヲ負フ場合

第三者ハ右(イ)乃至(ハ)ノ場合ニ於テ證書提出ノ義務アリ(三四三前段) 第三者カ其訴訟ニ於テ證書ヲ引用スルハ第三者カ從參加人ナル場合又ハ第六十二條ニヨリ訴訟ヨリ脱退シラ第三者トナリタル場合ニ起ル

第五 書證ノ拋棄

舉證者ハ證書ヲ提出シタル後ハ相手方ノ承諾ヲ得タルトキニアラサレハ其證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス(三五〇)

第六 證書ノ證據力

證書ノ證據力ハ形式的證據力ト實質的證據力トニ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ(一) 形式的證據力

證書ハ其成立ノ真正ナル場合ニ於テ初メテ係爭事實ニ付其證書カ如何ナル證據ノ價值ヲ有スルカラ定ムルコトヲ得ヘシ即チ證書ハ其成立ノ真正ナル場合ニ於テ初メテ其内容ヲ注意スルニ足ルモノニシテ證書カ真正ニ成立ス

ル場合ニ存スル證據カヲ稱シテ形式的證據カト云フ  
 證書ハ證書ノ内容タル思想ノ表示カ舉證者ニヨリテ主張セラルル者ニヨリ  
 テ爲サレタルトキニ之ヲ真正ニ成立スト云フコトヲ得ヘシ故ニ檢證證書ハ  
 其證書ニヨリテ陳述ヲ爲シタリト舉證者ニヨリテ主張セラルル者カ其證書  
 ニヨリテ陳述ヲ爲シタルトキ、報告證書ハ其證書ニヨリテ其實驗ノ報告ヲ  
 爲シタリト舉證者ニヨリテ主張セラルル者カ其證書ニヨリテ報告ヲ爲シタ  
 ルトキニ真正ニ成立スルモノニシテ思想ノ表示者自ラ之ヲ記載シタリヤ他  
 人ヲシテ之ヲ記載セシメタリヤヲ問ハサルモノトス而シテ證書カ陳述其物  
 ヲ表示シタルモノナルト實驗ノ觀察ヲ表示シタルモノナルトヲ問ハス之ニ  
 ヨリテ其思想ヲ表示シタル者ヲ以テ其證書ノ作成者ト云フ從テ證書ノ作成  
 者ハ其符號ノ記載者ト之ヲ異ニスルコトアリ  
 舉證者ハ證書ノ作成者ノ何人ナルカヲ陳述ス可キモノニシテ其陳述ハ明示  
 的ナルコトアリ默示的ナルコトアリ舉證者カ其證書ノ作成者ノ表示アル證

書ヲ提出シタルトキハ特ニ其作成者ヲ明ニ陳述セサルモ其作成者トシテ證  
 書ニ表示セラルル者ニヨリテ作成セラレタルコトヲ暗黙ニ陳述シタルモノ  
 ト看做ス可キモノナレトモ證書ニ其作成者トシテノ表示ナキトキハ特ニ之  
 ヲ明ニ陳述スルコトヲ要ス

舉證者カ其證書ノ作成者ノ何人ナルカヲ陳述シタルトキハ相手方ハ之ニ對  
 シテ陳述ヲ爲ササル可カラス(一一一第一項)

公正證書ハ檢眞ヲ經タル私署證書ト同シク之ヲ偽造又ハ變造ナリト主張ス  
 ル者ニ於テ其證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲ス可キモノナルヲ以テ  
 (三五第一項) 其真正ニ成立シタルコトヲ爭ハントスル相手方ニ於テ右ノ申  
 立ヲ爲シ其眞否ニ付利益ナル中間判決(三五第二項) ヲ得ルニ非サレハ之ヲ  
 爭フモ其效ナシ、第三百五十一條ニハ「公正證書」トアルヲ以テ其證書カ公  
 正證書ナルコトハ舉證者ニ於テ之ヲ立證セサルヘカラサルヤノ觀アリ若シ  
 斯ノ如クハ此規定ハ無意義ノモノトナル故ニ此規定ハ方式又旨趣ニ從ヒ

公正證書ト見ルヘキ證書ハ一應之ヲ真正ニ成立シタルモノト推定ス可キコトヲ其前提ト爲セルモノト解セサルヘカラス(獨民訴四三七第一項參照)

私署證書ノ真正ニ成立シタル事實ヲ相手方ニ於テ自白シタルトキ及真正ニ成立シタリトノ舉證者ノ主張ニ對シテ相手方カ明ニ之ヲ爭ハサルカ爲メ自白シタルモノト看做サルルトキ(一一一第二項)ハ舉證者ハ其真正ニ成立シタルコトヲ證明スルノ要ナシ相手方ハ其證書ノ成立ニ干與セサル場合ニアラサレハ不知ノ陳述ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ相手方カ不知ノ陳述ヲ爲シタルトキハ真正ニ成立シタリトノ舉證者ノ主張事實ハ相手方ニ於テ之ヲ爭ヒタルモノト看做サル(一一一第三項)相手方カ舉證者ノ主張ヲ否認シ又ハ之ニ對シテ不知ヲ以テ答ヘタルトキハ舉證者ノ其證書ノ真正ニ成立シタルコトヲ證明セサルヘカラス而シテ其證明ニ付テハ他ノ係爭事實ノ證明ト同様總テノ證據方法ヲ用キルコトヲ得レトモ舉證者ハ裁判所ニ對シ檢眞ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ(三五二)

檢眞ハ私署證書ノ眞否ヲ確定スル手續ニシテ總テノ證據方法及手跡若クハ印章ノ對照ニヨリテ之ヲ爲ス(三五三第一項)故ニ此手續ニヨリ證書ノ眞否ヲ證セントスル當事者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ手跡若クハ印章ヲ對照スル爲ニ適當ナル書類ヲ提出ス可キモノトス(三五三第二項)相手方カ真正ナリト自白シ又ハ舉證者カ真正ナルコトヲ證明シタル適當ノ對照書類ナキトキハ對照ノ爲メ原告若クハ被告ニ對シ裁判所ニ於テ一定ノ語辭ノ手記ヲ命スルコトヲ得ルモノニシテ其手記シタル語辭ハ調書ノ附録トシテ之ニ添附ス可キモノトス(三五三第三項)

裁判所ハ手跡若クハ印章ヲ對照シタル結果ニ付自由ナル心證ヲ以テ裁判ヲ爲シ又適當ナル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スヘキモノトス(三五三第四項)然レトモ當事者カ裁判所ノ定メタル期間内ニ對照書類ヲ提出セサルトキ又ハ對照スヘキ語辭ヲ手記ス可キ裁判所ノ命ニ對シ十分ナル辯解ヲ爲サシテ之ニ從ハサルトキ又ハ書様ヲ變シテ手記シタルトキハ證書

ノ真否ニ付テノ相手方ノ主張ハ其他ノ證據ヲ要セスシテ之ヲ真正ナリト看做スコトヲ得ルモノトス(三五三末項)

(二) 實質的證據力

證書カ係爭事實ヲ證明スルニ足ル場合ニ於テ證書ハ實質的證據力ヲ有ス故ニ證書カ形式的證據力ヲ有スルモ之ニヨリテ係爭事實ヲ證明スル能ハスンハ實質的證據力アリト云フコト能ハサルモノニシテ形式的證據力アル證書ノ實質的證據力ノ有無ハ之ニ付特別ノ規定ナキ現行法ノ下ニ於テハ裁判官ノ自由ナル心證ニヨリテ之ヲ判斷スルノ外ナシ(三一七)(獨民訴四一五乃至四一九改正案三七九乃至三八五參照)

第七 證書ノ成立ヲ不當ニ爭フ者ニ對スル制裁

公正證書ノ偽造若クハ變造ナルコトヲ眞實ニ反キテ主張シタル原告若クハ被告ニ惡意若クハ重過失ノ責アルトキハ五十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又私署證書ナルコトヲ眞實ニ反キテ爭ヒタル原告若ハ被告ニ惡意若クハ重過失ノ責アル

トキハ二十圓以下ノ過料ヲ言渡ス可キモノトス(三五五)

第八 證書ノ還付

提出シタル證書ハ直ニ之ヲ還付シ又適當ナル場合ニ於テハ其謄本ヲ記錄ニ留メテ之ヲ還付ス可キモノナレトモ證書ノ偽造又ハ變造ナリト爭フトキハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ還付スルコトヲ得サルモノトス(三五四)

第六項 檢 證

第一 檢證ノ意義

檢證トハ係爭事實ノ真否ヲ確ムル爲メ裁判官カ自己ノ五官ノ感能ニ依リテ或物性ヲ觀察スルコトヲ謂フ故ニ檢證ハ裁判官カ現在ニ於テ自ラ五官ノ感能ニ依ル觀察ヲ爲シ得ヘキ場合ニ之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ檢證ハ視覺ニ依ル場合最モ多シト雖モ耳ヲ以テ聽キ舌ヲ以テ味ヒ手ヲ以テ觸レ鼻ヲ以テ嗅ク場合亦總テ檢證タリ檢證ノ物件ハ之ヲ檢證物ト稱ス(三五七)檢證物ハ必スシモ物ニ限ラス人モ亦檢證物ト爲ル場合アリ例ヘハ疾病瘡癩ヲ證セントスル場合ノ如

シ證書ハ其内容即其旨趣ヲ以テ證明ノ用ニ供セントスルトキハ書證ノ證據方法トナルモノナレトモ其存在若クハ其形體ヲ以テ證明ノ用ニ供セントスル場合ノ如キハ檢證物トナルモノナリ

## 第二 檢證ノ手續

檢證ノ申出ハ檢證物ヲ表示シ及證ス可キ事實ヲ開示シテ之ヲ爲ス可キモノトス(三五七)

何人ト雖モ檢證物提出ノ義務又ハ自ラ檢證物ト爲ルノ義務ヲ國家ニ對シテ負擔スルモノニ非ス然レトモ舉證者カ相手方又ハ第三者ニ對シテ檢證物ヲ提出シ又ハ自ラ檢證物トナルコトヲ強要スルコトヲ得ヘキ私法上ノ權利ヲ有スルトキニ於テ相手方又ハ第三者カ其義務ヲ認メサルトキハ訴ヲ提起シ若シ強制執行ヲ爲シ得ヘキ限りハ之ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ故ニ此場合ニ於テハ舉證者ハ相當ノ期間ヲ定ムルコトヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(二七五)相手方カ檢證物ヲ提出スルコトヲ拒ミ又ハ自ラ檢證物トナルコトヲ認容セサルトキハ裁

判所ハ第二百十七條ノ規定ニ從ヒ自由ナル心證ヲ以テ不利益ナル判斷ヲ受クルコトアルヘシ

證書カ檢證物トナル場合ニ於テハ書證ニ付テノ規定ノ準用アリ蓋シ第二百五十六條ハ證書ニアラスシテ證書ニ類スルモ本來檢證物タルモノニ付テ證書ニ付テノ規定ノ準用アルコトヲ明言セリ然ラハ證書カ檢證物タル場合ニ於テモ亦書證ニ付テノ規定ノ準用アリト解スヘキハ當然ナレハナリ

裁判所ハ職權ヲ以テ檢證ヲ命スルコトヲ得ヘシ(一一七)此場合ニ於テモ裁判所ハ當事者ノ主張セル事實ノ範圍ヲ超ヘテ事實ノ確定ヲ爲スコト能ハス

檢證ノ申出アリタルトキハ受訴裁判所ハ檢證ヲ爲ス可キヤ否ヤヲ決定ス檢證ヲ裁判所外ニ於テ爲ス場合ニ之ヲ臨檢ト稱ス

受訴裁判所ハ檢證ヲ爲スニ際シ鑑定人ノ立會ヲ命スルコトヲ得(三五八第一項)又受訴裁判所ハ檢證及鑑定人ノ任命ヲ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得ヘシ(三五八第二項)

檢證ヲ爲ス際發見シタル事項ハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ナラシメ又必要ナル場合ニ於テハ調書ノ附録トシテ添付ス可キ圖面ヲ作り之ヲ明確ナラシム可キモノナレトモ既ニ記録ニ圖面ノ存スルトキハ之ヲ檢證物ニ對照シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ更正ス可キモノトス(三五九)

### 第三 檢證物ノ證據力

檢證物ノ證據カハ(一)檢證物カ係爭事實ト關係ヲ有スルヤ否ヤ(二)檢證物カ眞正ニシテ且偽造若クハ變造ニ係ラサルヤ否ヤニ關係ヲ有スルモノナリ而シテ(三)ニ付爭アルトキハ受訴裁判所之ヲ裁判ス(二三八)

### 第七項 當事者本人ノ訊問

#### 第一 當事者本人訊問ノ意義

當事者本人ノ訊問トハ裁判所カ當事者ノ提出セル總テノ證據ヲ取調ヘタル結果證ス可キ事實ノ眞否ニ付未タ心證ヲ得サルトキ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ヲ訊問スルコトヲ謂フ(三六〇)當事者本人ノ訊問ハ當事

者ノ提出シタル總テノ證據ヲ取調ヘタル後ニ之ヲ爲ス可キモノナルヲ以テ裁判所カ當事者本人ノ訊問ヲ命シタル後ニ於テモ當事者カ他ノ證據ヲ提出シタルトキハ先ツ其證據ヲ取調ヘ然ル後ニ本人ノ訊問ヲ爲ササルヘカラス然レトモ裁判所ノ職權ニ屬スル檢證及鑑定ハ既ニ之ヲ取調ヘタル後ナルト否トヲ問ハサルモノナリ此ノ如ク當事者本人ノ訊問ハ當事者ノ申出テタル他ノ證據ヲ總テ取調ヘタル後ニ之ヲ爲ス可キモノナルヲ以テ補充的證據ノ性質ヲ有スルモノナリ當事者本人ノ訊問ハ證人ノ訊問ト同様證據方法ニ屬ス而シテ其異ルトコロハ一ハ訴訟ノ當事者本人ヲ訊問シ(法律上代理人ハ當事者本人ト同一ニ看做ス)他ハ訴訟ノ第三者ヲ訊問スル點ニ在リ故ニ當事者本人ノ供述カ如何ナル證據力ヲ有スルカハ證人ノ場合ト同様裁判所ノ自由ナル心證ニヨリテ之ヲ決ス可キモノニシテ(二七二)獨逸ニ於ケル宣誓證人ノ如ク法定證據ニ屬スルモノニ非ラス故ニ其供述ヲ以テ直ニ之ヲ眞實ト認メサル可ラサルモノニ非ラス



茲ニ掲クル當事者ノ本人訊問ハ證據方法ナルヲ以テ第四百十四條ノ本人ノ訊問トハ其性質ヲ異ニス何トナレハ第四百十四條ノ場合ハ本人ノ訊問ニヨリテ事件ノ關係ヲ明瞭ナラシムルニ過キササルモノニシテ其供述ヲ以テ事實ヲ確定スルコトヲ得サルモノトス而シテ尙ホ兩者ノ異ルトコロハ第四百十四條ノ場合ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ於テモ本人ノ訊問ヲ爲スコトヲ得レトモ第三百六十條ノ場合ハ當事者ノ提出シタル總テノ證據ヲ取調ヘタル後ナラサル可ラス又第四百十四條ノ場合ハ當事者出頭セサルモ必スシモ不利益ノ結果ヲ被ルコトナケレトモ第三百六十條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ出頭セサル當事者ニ第三百六十三條ニ規定セルカ如キ不利益ノ結果ヲ生セシムルコトヲ得ヘキ點ニ在リ

## 第二 當事者本人ノ訊問手續

裁判所カ本人ヲ訊問スルコトヲ必要ト認メタルトキハ原告若クハ被告ヲ訊問スルノ決定ヲ爲スコキモノニシテ原告若クハ被告自身カ決定言渡ノ際在廷スルトキハ直チニ其訊問ヲ爲スヲ以テ通例トス(三六一)然レトモ其期日ニ於テ直

ニ其訊問ヲ爲ササルトキハ他ノ期日ヲ定メテ之ヲ訊問スコキモノニテ此場合ニハ第二百九十二條ノ例ニ依ルモノトス

訴訟無能力者ノ法律上代理人カ訴訟ヲ爲ストキハ法律上代理人若クハ訴訟無能力者ヲ訊問スコキヤ又ハ此等ノ者ヲ共ニ訊問スコキヤ又法律上代理人數人アルトキ其一人ヲ訊問スコキヤ又ハ數人ヲ訊問スコキヤハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム可キモノトス(三六四)

訊問ヲ受クル原告若クハ被告ハ書類ノ朗讀ヲ以テ供述ニ代フルコト能ハス又覺書ヲ用キテ訊問ニ答フルコトヲ得サルモノナレトモ算數ノ關係ニ限り覺書ヲ用キルコトヲ許スコト證人ノ場合ト同様ナリ(三六二)

本人訊問ノ爲メ呼出ヲ受ケタル原告若クハ被告カ十分ノ理由ナクシテ訊問期日ニ出頭セス又ハ十分ノ理由ナクシテ供述スルコトヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ訊問ニ因リテ舉證スコキ相手方ノ主張ヲ正當ナリト認ムルコトヲ得ヘシ(三六三)

0

第八項 證據保全

第一 證據保全ノ意義及要件

證據保全トハ訴訟ノ提起前又ハ訴訟ノ繫屬中ナルモ未タ證據調ヲ爲スノ程度ニ達セサル以前ニ於テ證據方法ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アルト主證據原因ヲ保存スル爲メ申立ニヨリテ裁判所ノ爲ス證據調ヲ謂フ

證據保全ノ要件左ノ如シ

- 一 訴訟提起前又ハ訴訟繫屬中ナルモ未タ證據調ヲ爲スノ程度ニ達セサルコト
  - 二 證據方法ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アルコト  
此條件ハ相手方ノ承諾アルトキハ之ヲ必要トセス(三七二)
  - 三 證據保全ノ方法ハ證人若クハ鑑定人ノ訊問又ハ檢證ナルコト
- 第二 證據保全ノ手續
- (一) 管轄裁判所

訴訟ノ繫屬中ハ證據保全ノ申請ハ受訴裁判所ニ之ヲ爲ス可ク切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ訊問ヲ受ク可キ者ノ所在地又ハ檢證ス可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ爲ス可キモノトス訴訟ノ提起前ニ於テハ訊問ヲ受ク可キ者ノ所在地又ハ檢證ス可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ申請ス可キモノトス(三六六)

(二) 申請

證據保全ノ申請ハ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ(三六六第四項) 其申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(三六七)

(イ) 相手方ノ表示 相手方トハ繫屬中又ハ後ニ提起ス可キ訴訟ノ相手方ヲ云フ然レトモ相手方ハ之ヲ指定スルコト能ハサル場合アリ例ヘハ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ訴ヲ提起セントスルモ未タ其加害者ノ何人ナルカヲ知ラサル場合アリ申立人カ相手方ヲ指定セサルトキハ申立人自己ノ過失ニ非ラスシテ相手方ヲ指定シ能ハサルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

- (ロ) 證據調ヲ爲ス可キ事實ノ表示
- (ハ) 證據ヲ法殊ニ證人若クハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ス可キトキハ其表示
- (ニ) 證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アル理由及其疏明
- (三) 裁判
- 證據保全ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得レトモ相手方ノ指定アル場合ニ於テ裁判所カ口頭辯論ヲ經ルコトヲ適當ト認メタルトキハ口頭辯論ヲ經タル上裁判ヲ爲ス可キモノニシテ其裁判ハ決定ノ形式ニ依ルモノトス(三六八第一項) 申請ヲ許容スル決定ニハ證據調ヲ爲ス可キ事實及證據方法殊ニ訊問ス可キ證人若クハ鑑定人ノ氏名ヲ記載ス可キモノニシテ此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(三六八第二項) 而シテ此場合ニ於テ裁判所ハ其知レサル相手方ノ權利防衛ノ爲ニ臨時代理人ヲ任スルコトヲ得ヘシ(三七二第二項)
- (四) 證據調ノ手續

證據調ノ期日ニハ申立人ヲ呼出シ又決定及申請ノ謄本ヲ送達シテ其權利防衛ノ爲ニ相手方若クハ裁判所ニ任シタル臨時代理人ヲ呼出ス可キモノナレトモ切迫ナル危険ノ場合ニ於テハ適當ナル時間ニ相手方若クハ臨時代理人ヲ呼出スコトヲ得サリシトキト雖モ證據調ヲ妨クルコト無シ(三六九)

證據調ハ一般ノ證據調ニ適用ス可キ規定ニ從ヒテ之ヲ爲シ證據調ノ調書ハ證據調ヲ命シタル裁判所ニ保存ス可キモノニシテ各當事者ハ證據調ノ調書ヲ訴訟ニ於テ使用スルノ權利ヲ有ス而シテ既ニ證據保全ノ手續ヲ爲シタル後ト雖モ受訴裁判所ハ其手續ノ不完全ト認メタルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ再度ノ證據調ヲ命シ又ハ既ニ調ヘタル證據ノ補充ヲ命スルコトヲ得ヘシ(三七〇)

## 第八節 判 決

### 第一款 裁判ノ意義及種別

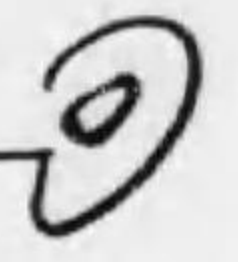
裁判トハ裁判所、裁判長、受命判事若クハ受託判事ノ裁判上ノ宣言ヲ謂フ裁判

上ノ宣言トハ法律ヲ適用シテ其宣言ノ内容ニ從ヒ法律上ノ效果ヲ生セシムル裁判官ノ意思表示ナリ、故ニ裁判官ノ意思表示ナルモ例ヘハ證人訊問、如キ宣言ニ屬セサルモノハ之ヲ裁判ト云フ能ハス、裁判ノ内容ハ訴訟上ノ手續ニ關スルト實體上ノ權利ニ關スルトヲ問ハス又裁判ハ訴訟ノ當事者ニ對スルコトアリ又第三者ニ對スルコトアレトモ凡テ裁判官ノ宣言タリ裁判所書記ノ爲ス宣言ハ我民事訴訟法ハ之ヲ處分ト稱シ裁判ト云ハス(四六五)

裁判ハ之ヲ判決、決定及命令ノ三種ニ區別ス(一三〇第五號)

判決トハ必要的口頭辯論ニ基キ實體法上及訴訟法上ノ權利ニ關シ一定ノ形式ヲ以テ爲ス裁判所ノ裁判ヲ云ヒ決定及命令ハ書面審理又ハ任意的口頭辯論ニ基キ主トシテ訴訟指揮ニ關シテ爲ス裁判所、裁判長、受命判事若クハ受託判事ノ爲ス裁判ナリ

(一) 判決ハ必要的口頭辯論ニ基キ一定ノ形式ヲ以テ爲ス裁判ナリ  
裁判ハ口頭辯論ヲ經テ之ヲ爲スヲ原則トス然レトモ口頭辯論ヲ經ルコトヲ要



セサル場合アリ(二〇三)判決ハ常ニ必要的口頭辯論ニ基クモノニシテ(二三二)必要的口頭辯論ニ基クトキハ必ス判決ヲ爲ス可キモノトス然レトモ任意的口頭辯論ニ基キ判決ヲ爲ス例外ノ場合アリ(七四條第一項、七五六)故ニ任意的口頭辯論ニ基クモ法律カ裁判ニ一定ノ形式(二三六)ヲ要求シ之ニ對シテ控訴上告ヲ許サントスルトキハ判決ヲ爲ス可キモノト爲セリ

決定及命令ハ任意的口頭辯論ニ基キ一定ノ形式ニ依ラスシテ爲ス裁判ナリ

(二) 裁判ハ實體上ノ權利若クハ訴訟上ノ權利ニ關シテ爲ス裁判ナリ

判決ハ實體上若クハ訴訟法上ノ權利ニ關シ之ヲ確定スル裁判ナレトモ決定及命令ハ實體上ノ權利ニ關スルモノアレトモ(二九四、三〇二、三三二、三三八、三八二)等)主トシテ訴訟指揮ニ關スル命令的裁判ナリ

(三) 判決ハ之ヲ言渡シタル裁判所ヲ羈束ス  
判決ハ之ヲ言渡シタル裁判所ヲ羈束スレトモ(二四〇)決定命令ニ付テハ第二百四十條ノ準用ナク後日自ラ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ヘシ(九五、一二三)

(四) 判決ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許ス

判決ニ對シテハ原則トシテ不服ノ申立ヲ許スモノニシテ例外ハ少ケレトモ(二七九)決定及命令ハ之ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノト然ラサルモノトアリ(四五五)判決ニ對スル不服ノ申立ハ控訴又ハ上告ニ依ルモノナレトモ決定及命令ニ對シテハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツ可キモノナリ

(五) 決定及命令ハ何レモ判決ニアラサル裁判ナレトモ決定ハ裁判所ノ爲ス裁判ニシテ命令ハ裁判長、受命判事若クハ受託判事ノ爲ス裁判ナリ

第二款 判決ノ種別

第一 對席判決及闕席判決

此區別ハ當事者ノ懈怠ノ結果ニ基クト否トニヨルモノニシテ當事者ノ雙方カ口頭辯論期日ニ出頭シタルト當事者ノ一方カ口頭辯論期日ニ出頭セサルトニヨルモノニアラス闕席判決トハ口頭辯論期日ニ當事者ノ一方出頭セス又ハ出

頭スルモ辯論ヲ爲ササルカ爲メ出頭セサルモノト看做サレ其懈怠ノ結果ニ基キテ爲ス判決ナリ、當事者カ口頭辯論期日ヲ懈怠スルモ出頭シタル又ハ出頭セサル原告ノ訴カ不合法ナル爲メ原告ニ訴ノ却下ヲ言渡シ又出頭シタル原告ノ請求自體カ法律上理由ナキカ爲メ原告ノ請求棄却ヲ言渡ス判決ハ當事者ノ懈怠ノ結果ニ基クモノニアラサルヲ以テ闕席判決ニ非ラス闕席判決ニ屬セサル判決ヲ對席判決ト稱ス

第二 終局判決及中間判決

終局判決トハ本訴又ハ反訴ニ付其審級ニ於テ訴訟手續ヲ終了スル判決ヲ云フ(二二五第一項)而シテ請求ノ全部ニ付テ爲スト一分ニ付テ爲スト訴訟法上ノ事由ニ基クト實體法上ノ請求ニ關スルト第一審ニ於テ爲スト上訴審ニ於テ爲ストヲ問ハサルモノナリ其審級ニ於ケル訴訟手續ヲ終了スル判決ハ總テ終局判決ニ屬スルヲ以テ控訴審ニ於ケル差戻判決(四二二、四二三)上告審ニ於ケル移送若クハ差戻判決(四八八)又ハ第一審ニ於テ管轄違トシテ地方裁判所若クハ區裁

判所へ移送スル判決(九)ノ如キ其判決ニ依リ事件ヲ終了スルコトヲ目的トスルモノニアラサルモ尙ホ終局判決ニ屬スルモノナリ  
中間判決トハ終局判決ヲ爲スノ準備トシテ訴訟ノ進行中ニ生シタル争點ニ付爲ス判決ヲ云フ(二二七)

**第三 全部判決及一分判決**

此區別ハ終局判決中ノ細別ニシテ訴訟ノ全部ヲ終了スル判決ハ之ヲ全部判決ト稱シ訴訟ノ一分ヲ終了スル判決ハ之ヲ一分判決ト稱ス(二六二)

**第四 實體法上ノ訴ニ對スル判決及訴訟法上ノ訴ニ對スル判決**

賣掛代金ノ請求、相續人廢除ノ請求、手形金支拂ノ請求等ノ如キ實體法上ノ請求ノ訴ニ對スル判決ハ前者ニ屬シ判決ニヨリテ確定シタル請求ニ關スル異議ノ訴(五四五)執行ノ目的物ニ關スル第三者ノ異議ノ訴(五四九)ノ如キ訴訟法上ノ原因ニ基ク訴ハ後者ニ屬ス

**第五 留保判決及非留保判決**

第四百二十六條第四百九十一條及第四百九十四條ニ基キ留保ヲ掲ケタル判決ハ前者ニ屬シ然ラサル判決ハ後者ニ屬ス

**第六 給付判決、確認判決及創設判決**

給付ヲ言渡ス判決ヲ給付判決ト云ヒ法律關係ノ存否ヲ確認スル判決ヲ確認判決ト云ヒ權利變更ヲ生セシムル判決ヲ創設判決ト云フ

**第七 假執行ノ宣言附判決及假執行ノ宣言ナキ判決**

未確定ノ判決ニ確定判決ト同様ノ效力ヲ付與スル爲メ假執行ノ宣言ヲ附シタル判決ハ前者ニ屬シ然ラサル判決ハ後者ニ屬ス

**第三款 判決ヲ爲スノ條件**

**第一 形式上ノ條件**

判決ハ權利拘束ノ發生後口辯頭論ヲ經ルコトヲ要スルノ外適法ニ裁判所ヲ構成シ且基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事之ヲ爲スコトヲ要ス(一九五、二一二、二〇三、三三三、四三六第一乃至三號、四六八第一乃至三號)基本タル口頭辯論ニ臨席シタ

ル判事ニ限り判決ヲ爲スコトヲ要スルコトハ口頭辯論主義ヲ採用シタル當然ノ結果ナリ判決ヲ爲ストハ評決ヲ爲シテ判決ヲ作成スルコトヲ云フモノナルヲ以テ判決ノ言渡ハ他ノ判事之ヲ爲スモ差支ナシ、基本タル口頭辯論トハ一定ノ申立ヨリ判決ニ接著スル口頭辯論ノ全部ニシテ所謂最終ノ辯論（二一六第一項）ニ臨席スルヲ以テ足ルモノニアラサルヲ以テ裁判所ノ構成ニ變更アリタルトキ常ニ辯論ヲ更新スヘキモノトス但シ口頭辯論ニ付特別ノ段階アル場合即チ證據決定ニ基ク證據調アリタル場合及準備手續アリタル場合ノ如キハ其結果ニ對スル當事者ノ口頭ノ演述ヲ聽クヲ以テ足ルモノトス（二一六第二項）

第二 實體上ノ條件

(一) 訴訟力裁判ヲ爲スニ熟スルコト

訴訟力裁判ヲ爲スニ熟スルトハ訴訟力實體法上又ハ訴訟法上ノ理由ニヨリ判決ヲ爲スコトヲ得ル程度ニ達シタルコトヲ云フ

(甲) 全部ノ終局判決ヲ爲ス場合

(イ) 訴ノ適法ナルコトノ確定シタルノミニテハ終局判決ヲ爲スニ熟セザレトモ訴ノ不適法ナルコトノ確定シタルトキハ妨訴抗辯ノアリタルト否トヲ問ハス又訴訟條件ノ欠缺カ其一箇タルト數箇タルトヲ問ハス本案請求ノ當否ニ付判決ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ已ニ判決ヲ爲スニ熟シタルモノト云フコトヲ得ヘシ(二三〇)

(ロ) 訴カ適法ナル場合ニ於テハ本案ニ付總テノ攻撃防禦方法ニ付審査ヲ爲シ原告ノ請求ヲ認容スヘキヤ又ハ之ヲ排斥スヘキヤヲ決ス可キモノニシテ其何レカニ決シ得ヘキトキハ終局判決ヲ爲スニ熟シタルモノナリ(二三〇第一項) 然レトモ數箇ノ攻撃方法中其一箇ヲ適切ナリトシ原告ノ勝訴ノ判決ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタルトキ及數箇ノ獨立ナル防禦方法中其一箇ヲ適切ナリトシ原告敗訴ノ判決ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタルトキハ裁判所ハ他ノ攻撃及防禦ノ方法ニ付判斷スルノ義務ナキヲ以テ直ニ終局判決ヲ爲ス可キモノトス(二三〇第二項)

第二百十條ノ規定ニ從ヒ裁判所カ同時ニ辯論及裁判ヲ爲ス爲メ訴訟ヲ併合シタル場合ニ於テ總テノ訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルマテ判決ヲ爲サス又ハ一分判決ヲ爲スカ如キハ當事者ノ當初ノ意思ニ反スルノ嫌アルヲ以テ裁判所ハ其數箇ノ訴訟中一ノミ判決ヲ爲スニ熟スルトキハ其訴訟ニ付直ニ全部ノ終局判決ヲ爲ス可キモノトス(二二五第二項)

(乙) 一分ノ終局判決ヲ爲ス場合

一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求中ノ一箇(主觀的又ハ客觀的訴ノ併合ノ場合及原告カ中間ノ確認ノ訴ヲ提起シタル場合)又ハ一箇ノ請求中ノ一分又ハ反訴ヲ起シタル場合(被告ノ起シタル中間ノ確認ノ訴ヲモ包含ス)ニ於テハ本訴若クハ反訴ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ一分終局判決ヲ爲ス可キモノトス(二二六第一項) 然レトモ裁判所ハ事件ノ事情ニ從ヒ一分判決ヲ相當トセサルトキハ之レヲ爲ササルコトヲ得ルモノトス(二二六第二項)

丙) 中間判決ヲ爲ス場合

(1) 各箇ノ獨立ナル攻撃若クハ防禦ノ方法カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ攻撃及防禦方法トハ證據方法ヲ除キ原告若クハ被告カ訴(反訴ヲモ包含ス)ヲ維持シ又ハ排斥スル爲メ主張スル事項ヲ云フモノニシテ其一箇ヲ以テ本訴ヲ維持スルニ足リ又其一箇ヲ以テ訴ヲ排斥スルニ足ルモノヲ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法ト云フ獨立ナル攻撃又ハ防禦方法アル場合ニ於テ之ニ付判決ヲ爲スコトヲ得ル程度ニ達シタルトキハ判決ヲ以テ其當否ヲ判斷スルコトヲ得ルモノニシテ若シ一箇ノ獨立ナル攻撃方法アル場合ニ於テ之ヲ理由ナシトスルトキ及理由アリトスルトキハ夫レ夫レ原告敗訴又ハ被告敗訴ノ終局判決ヲ爲ス可ク一箇若クハ數箇ノ獨立ナル防禦方法理由アルトキハ是亦直チニ終局判決ヲ以テ原告ニ敗訴ヲ言渡スヘキモノナレトモ一箇ノ獨立ナル攻撃方法理由アルモ防禦方法ノ當否ニ付尚ホ審理ヲ爲スノ必要アルトキ一箇若クハ數箇ノ



獨立ナル防禦方法理由ナキトキ又ハ一箇ノ獨立ナル攻撃方法理由ナキニ他ノ獨立ナル攻撃方法ノ當否ニ付審査スルノ必要アルトキハ中間判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ(二二七)

(2) 中間ノ争カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

中間ノ争トハ必要的口頭辯論ニ基キ生シタルモノニシテ獨立ナル攻撃又ハ防禦方法ニ屬セサル訴訟上ノ争ニシテ之ヲ判斷セサレハ訴訟ヲ進行スルコト能ハサルモノヲ云フ例ヘハ證書提出ノ義務ニ關スル争ノ如キモノヲ云フ此争ニ付裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ中間判決ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(二二七)

(3) 請求ノ原因及數額ニ付争アリ先ツ原因ニ付裁判ヲ爲スニ熟シタルトキ、

請求ノ原因及數額ニ付争アリタルトキハ裁判所ハ先ツ辯論ヲ原因ノ點ニ制限スルコトヲ得ヘク此場合原因ノ有無ノ點ニ付裁判ヲ爲スニ熟シ

請求ノ原因ナシト認ムルトキハ終局判決ヲ以テ原告ノ請求ヲ棄却ス可キモノナレトモ原因アリト認ムルトキハ中間判決ヲ以テ其旨ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(二二八第一項)

以上ノ中間判決ハ裁判所ニ於テ之ヲ爲ササル可カラサルモノニアラサルヲ以テ裁判所ニ於テ中間判決ヲ爲ササルトキハ終局判決ノ理由中ニ於テ其判斷ヲ爲セハ足ルモノトス而シテ中間判決ヲ爲シタルトキハ中間判決ハ爾後之ヲ言渡シタル裁判所ヲ羈束スルモノナリ(二四〇)而シテ中間判決ニ對シテハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ許ササルヲ原則トスルヲ以テ之ニ對シテ不服ヲ申立テントセハ終局判決ニ對スル上訴ノ際之ニ對スル不服ヲ申立ツ可キヲ原則トス(三九六、三九七、四三二、四三三)然レトモ請求ノ原因アリトスル中間判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做シ其判決確定ニ至ルマテ爾後ノ手續ヲ中止スレトモ裁判所ハ申立ニ因リ其數額ニ付辯論ヲ爲スコトヲ命スルコトヲ得ルモノナリ訴ニ變更ナシトスル中間判決

ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルコトハ前述ノ如シ(一九七)

右ノ外特ニ訴訟法中ニ規定セル中間判決ハ妨訴抗辯棄却ノ中間判決(二〇七)證書ノ眞否ヲ確定スル中間判決(三五第一項)控訴審ニ於テ留保ヲ掲ケタル中間判決(四二六)及證書訴訟並ニ爲替訴訟ニ於テ留保ヲ掲ケタル中間判決(四九一、四九四)ニシテ妨訴抗辯棄却ノ中間判決ハ上訴ニ關シテ終局判決ト看做サレ留保ヲ掲ケタル中間判決ハ何レモ上訴及強制執行ニ付終局判決ト看做サルモノナリ

(二) 拋棄又ハ認諾判決ノ申立アリタルトキ

口頭辯論ノ際原告其訴ヘタル請求ヲ拋棄シ又ハ被告之ヲ認諾スルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ其拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ以テ訴却下又ハ被告敗訴ノ言渡ヲ爲ス可キモノトス(二九二)故ニ拋棄又ハ認諾アリタルトキハ訴訟ハ判決ヲ爲スニ熟スルモノナレトモ相手方ノ申立アルニアラサレハ判決ヲ爲スニ至ラサルモノトス

請求ノ拋棄トハ原告カ其訴ヲ以テ主張スル實體上ノ請求ノ理由ナキコトヲ自認スル訴訟行爲ニシテ認諾トハ被告カ訴ニヨリテ主張セラルル原告ノ實體上ノ請求ノ理由アルコトヲ自認スル訴訟行爲ナリ故ニ拋棄ハ其後ノ辨濟ニ因リテ爲サルルコトアリ又原告自身請求權ノ基礎薄弱ナルコトヲ覺知シタルニヨリテ爲サルルコトアリ實體上ノ權利ノ拋棄又ハ訴ノ取下ト異ナル請求ノ認諾ハ被告カ原告ノ請求權存在ヲ認容スルニヨルコトアリ又訴訟上ノ争ヲ欲セサルカ爲メニ原告ニ請求權ナシト信シツツ尙ホ之ヲ爲スコトアリ自白ト相似タレトモ自白ハ事實ノミニ關シ請求權ヲ認ムルモノニアラサルカ故ニ兩者ノ間ニハ相違アルモノトス  
拋棄又ハ認諾アリタル場合ニ於テ相手方カ之ニ基キ判決ヲ求ムル權利ヲ拋棄シタルトキハ其拋棄カ明示默示何レナルトヲ問ハス訴訟ハ直ニ終了スルトモ其權利ヲ拋棄セサル限りハ其判決ハ求ム可キ時期ニ付法律上ノ制限ナキヲ以テ休止期間ノ滿了前日ノ指定ヲ求メテ其期日ニ於テ其判決ヲ求ム

ルノ申立ヲ爲ササル限リハ準取下ニヨリ訴訟ノ終了ヲ見ルニ至ルモノトス  
尤モ當事者雙方出頭シテ口頭辯論ヲ爲シ其際拋棄又ハ認諾アリタルニ相手  
方カ判決ヲ求メスシテ任意退廷シタルトキ反對ノ意思ノ表ハレサル限リハ  
暗黙ニ判決ヲ求ムルノ權利ヲ拋棄シタルモノト認ムルヲ相當トス可シ

(三) 闕席判決ノ申立アリスルトキ

説明ヲ後ニ讓ル

第四款 判決ヲ爲ス可キ範圍

判決ハ口頭辯論ヲ經タル總テノ攻撃及防禦ノ方法ヲ包括スルヲ原則トス(二三〇  
第一項)故ニ當事者カ口頭辯論ニ於テ提供シタル訴訟材料ノ全部即チ狹義ノ攻撃  
防禦ノ方法及證據方法並ニ抗辯ニ付判斷ヲ爲シテ判決ヲ爲ス可キモノトス尤モ  
中間判決ヲ爲シタルトキハ之ヲ言渡シタル裁判所ハ其中間判決ニ羈束セラルル  
モノナルヲ以テ中間判決ヲ基礎トシテ終局判決ヲ爲ス可キモノナレトモ中間判  
決ヲ爲ササリシトキハ終局判決ノ理由中ニ於テ其事項ニ付判斷ヲ爲ス可キハ勿

論ナリ然レトモ數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦方法アリテ其中一箇ヲ適切ナリト  
認ムルトキハ裁判所ハ他ノ方法ニ付判斷スルノ義務ナキコト前述ノ如シ(二三)  
第二項)而シテ我民事訴訟法ハ辯論主義ヲ採レルヲ以テ裁判所ハ當事者ノ申立テ  
サル事物ヲ原告若クハ被告ニ歸セシムルノ權ナキモノトス(二三一第一項)故ニ例  
ヘハ五百圓ノ支拂ヲ命ス可キコトヲ求メタルニ千圓ノ支拂ヲ命スル判決ヲ爲ス  
能ハス又反訴又ハ第五百十條第二項第四百二十七條第二項ノ申立ナキニ原告ニ  
支拂ヲ命スルコトヲ得ス又不法行爲ニ基ク損害賠償請求ノ訴ニ付契約不履行ヲ  
認メテ之ニ基ク損害賠償ヲ言渡スカ如ク性質ノ異ル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ  
得サルモノトス然レトモ裁判所ハ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔  
ニ限リ申立アラサルモ判決ヲ爲ス可キモノトス但一分判決ヲ爲ス場合ニ於テハ  
費用ノ裁判ヲ後ノ判決ニ讓ルコトヲ得ルモノトス(二三一第二項)被告ニハ反訴ヲ  
提起シタル場合ノ外ハ一定ノ申立ナルモノ之ナキヲ以テ原告ノ請求ノ不當ナル  
トキハ被告ノ申立ナクトモ原告ノ請求ヲ棄却ス可キハ當然ナリ

## 第五款 判決ノ言渡

判決ハ言渡ニヨリテ外部ニ對シテ成立スルモノナルヲ以テ其言渡ヲ必要トス判決ノ言渡ハ口頭辯論ノ終結スル期日又ハ直ニ指定スル期日ニ於テ之ヲ爲ス可キモノニシテ其期日ハ七日ヲ過クルコトヲ得サルモノトス(二三三)尤モ七日ヲ過クルコトヲ得サル旨ノ規定ハ訓示規定ナルヲ以テ七日ヲ過クル期日ニ於テ之ヲ言渡スモ判決ノ效力ニ影響スルコトナシ

判決ハ主文ヲ朗讀シテ之ヲ言渡スコトヲ要ス故ニ判決ノ原本ハ判決ノ言渡マテニ完成セサルモ其言渡ヲ爲スコトヲ得レトモ少クトモ判決ノ主文タルモノハ此言渡期日マテニ作成セサルヘカラサルモノナリ然レトモ闕席判決ノ言渡ハ其主文ヲ作ラサル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(二三四第一項) 裁判ノ理由ハ之ヲ言渡スコトヲ要セサレトモ之ヲ言渡スコトヲ至當ト認ムルトキハ同時ニ其理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ク可キモノトス(二三四第二項)

判決ハ公開シテ裁判長之ヲ言渡スコトヲ要スルモノナレトモ判決ノ言渡ハ當事

者又ハ其一方ノ在廷スルト否トヲ問ハス其效力ヲ生ス(憲五九、裁條一〇五、民訴二三五第一項)

判決ハ言渡ニヨリテ外部ニ對シ其效力ヲ生シ裁判所モ亦之ニ羈束セララルモノナルヲ以テ之ヲ言渡シタル裁判所ハ故障又ハ再審ノ場合ノ外自ラ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス(二四〇)又言渡アリタル判決ニ基キ訴訟手續ヲ續行シ又ハ他ニ判決ヲ使用スル原告若ハ被告ノ權ハ特別ノ場合ノ外相手方ニ其判決ヲ送達スルト否トニ拘ハラサルモノトス(二三五第二項) 故ニ妨訴抗辯棄却ノ中間判決又ハ請求ノ原因ヲ正當トスル中間判決ハ上訴ニ關シテ終局判決ト看做サルルモノナレトモ其送達前ニ於テ本案ニ付又ハ數額ニ付辯論ヲ爲スコトヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(二〇七、二二八)又判決ノ使用ニ判決ノ確定ヲ必要トスルコト多ク從テ送達ヲ必要トスルコト多ケレトモ判決ノ確定ヲ必要トセサル場合又ハ判決ノ言渡ニヨリ直ニ確定スル場合ノ如キハ送達ヲ俟タスシテ使用スルコトヲ得ヘシ例ヘハ訴訟費用ノ確定決定申請、執行文付與ノ申請、假差押假處分ノ執行ノ場合ノ如

シ(八四、五一八、七四九、七五六)

法律ニ特定シタル場合トハ故障、上訴ニ付テノ不變期間ノ進行(二五五、四〇〇、四三七、四六六)強制執行(五二八)追加裁判申立期間ノ進行(二四二)等ノ場合ヲ云フ

#### 第六款 判決ノ作成及送達

##### 第一 判決ノ作成

判決ノ原本ハ言渡ノ日ヨリ起算シテ七日内ニ之ヲ作成シ裁判所書記ニ之ヲ交付ス可キモノトス(二三七第二項)

判決ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可キモノトス(二三六)

- 一 當事者及其法律上代理人ノ氏名、身分、職業及住所  
當事者及其法律上代理人ノ何人ナルカヲ知リ得ヘキ程度ニ記載スルヲ以テ足ル故ニ身分職業ノ如キハ之ヲ缺クモ違法ニ非ラス
- 二 事實及争點ノ摘示ハ當事者ノ口頭演述ニ基キ殊ニ提出シタル申立ヲ表示シテ之ヲ爲ス

##### 三 裁判ノ理由

##### 四 判決主文

##### 五 裁判所ノ名稱 裁判ヲ爲シタル判事ノ官氏名

判決ノ原本ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スルコトヲ要スレトモ陪席判事署名捺印スルニ差支アルトキハ其理由ヲ開示シテ裁判長其旨ヲ附記シ裁判長差支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ヲ附記ス而シテ裁判所書記ハ言渡ノ日及原本領收ノ日ヲ原本ニ附記シ且其附記ニ署名捺印ス可キモノトス

##### 第二 判決ノ送達

判決ハ申立ニ因リテ之ヲ送達ス、裁判所ハ職權ヲ以テ其送達ヲ爲スコトヲ得ス人事訴訟ニハ例外アリ(人訴一五、二六、三八、六二)故ニ當事者ハ判決ノ送達アラシコトヲ申立ツルコトヲ得ルモノニシテ其申立アリタルトキハ判決ノ正本ヲ送達ス可キモノトス(二三八)未タ判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本ニ署名捺印セサル間ハ裁判所書記ハ其正本、抄本及謄本ヲ付與スルコトヲ得サルモ

ノニシテ裁判所書記カ判決ノ正本、抄本又ハ謄本ヲ作成スルトキハ之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證ス可キモノトス(二三九)

#### 第七款 判決ノ更正及補充

判決中違算書損及此ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ更正スルコトヲ得ルモノニシテ其更正ニ付テハ口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セス決定ヲ以テ裁判スルコトヲ得ルモノトス(二四一第一、二項)而シテ判決ノ更正ニ付テハ期間ノ定メナキヲ以テ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘク送達ノ前後、上訴提起ノ有無、確定ノ前後ヲ問ハス其判決ヲ爲シタル判事ニ限ラス之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス、右更正ノ申立ヲ却下スル裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得サレトモ更正ヲ宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(二四一第三項)

主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ノ全部若クハ一部ノ裁判ヲ爲スニ際シ脱漏シタルトキハ當事者ノ申立ニ因リ追加ノ裁判ヲ以テ判決ノ補充ヲ爲ス可キモ

ノトス而シテ其申立ハ判決ノ言渡後直ニ又ハ遅クトモ判決ノ正本ヲ送達シタル日ヨリ起算シテ七日ノ期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要シ此期間ヲ徒過スルトキハ最早ヤ其申立ヲ爲スコトヲ得ス此部分ニ付判決ナキニ終リ上訴ニヨルモ救済ヲ受クルノ道ナキニ至ルモノトス(二四二第二項)追加裁判ノ申立アルトキハ言渡期日ニ於テ即時ニ又ハ新期日ヲ定メテ口頭辯論ヲ爲サシム可キモノニシテ其辯論ハ訴訟ノ完結セサル部分ニ限り之ヲ爲ス可キモノタリ(二四二第三、四項)控訴期間内ニ追加裁判ヲ以テ判決ヲ補充シタルトキハ控訴期間ノ進行ハ最初ノ判決ニ對スル控訴ニ付テモ追加裁判ノ送達ヲ以テ始マルモノトス(四〇〇第三項)判決ヲ更正シ又ハ補充スル裁判ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ追加シ若シ正本ニ之ヲ追加スルコトヲ得サルトキハ更正又ハ補充ノ裁判ノ正本ヲ作ル可キモノトス(四四三)

#### 第八款 判決ノ效力

##### 第一 言渡ニヨリテ生スル效力

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續 判決

裁判所ハ其言渡シタル終局判決及中間判決ノ中ニ包含シタル裁判ニ羈束セラレ(二四〇)故障(二五六、二六〇)又ハ再審(四六七、四七二)ノ場合ノ外自ラ其裁判ノ取消又ハ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第二 判決ノ確定力

(一) 形式的確定力

形式的確定力トハ判決カ故障若クハ上訴ニヨリテ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルニ至ル效力ヲ云フ、形式的確定力ヲ有スルコトヲ得ヘキ判決ハ終局判決並ニ上訴ニ關シテ終局判決ト看做サルル中間判決ナリ而シテ此等ノ判決カ確定力ヲ生スルハ上訴又ハ故障期間ノ空過或ハ故障又ハ上訴ノ拋棄若クハ取下或ハ上告審ニ於ケル對席判決若クハ故障ヲ許ササル闕席判決ノ言渡ニヨルモノニシテ判決ニ因リ強制執行ヲ爲スコトヲ得ルハ此形式的確定力ニヨルモノナリ尤モ假執行ノ宣言ニ基キ又ハ法律カ明示又ハ默示ヲ以テ未確定ノ判決ニ因ル強制執行ヲ許スコトアルハ例外ニ屬ス

(二) 實體的確定力

實體的確定力トハ判決カ形式的確定力ヲ生シタル結果其訴訟ノ目的物タル法律關係確定シ後日同一訴訟物ニ付同一當事者間ニ訴訟ノ起リタル場合ニ前判決ニ羈束セラレル效力ニシテ所謂既判力(改正案二八一)之ナリ既判力ハ其判決ヲ言渡シタル裁判所ノミナラス總テノ裁判所ヲ羈束シ同一訴訟物ニ付前判決ト異リタル判決ヲ爲スコトヲ得サラシムル效力ニシテ訴訟ノ本案ニ關スルモノナリ故ニ羅馬ノ一事不再理ノ原則トハ異レリ蓋シ羅馬ノ一事不再理ノ原則ハ訴訟條件ニ關シ確定判決ヲ經タル同一訴訟物ニ付更ニ訴ノ提起アリタルトキハ之ヲ不適法トシテ却下ス可キモノトナスモノナレハナリ、既判力ハ裁判所ヲシテ前判決ト異ル判決ヲ爲スコトヲ得サラシムルモノナルヲ以テ當事者モ亦之ニ羈束セラレル結果ヲ生ス何トナレハ當事者ニ於テ前判決ニヨリ確定シタル權利關係ニ付之ニ反スル主張ヲ爲スモ其結果ヲ得ルコト能ハサレハナリ、既判力ハ裁判所ヲシテ前判決ト異ル判決ヲ爲

スコトヲ得サラシメ又當事者ヲシテ前判決ニ異ル主張ヲ正當ニ爲スコトヲ得サラシムルモノナルヲ以テ例ヘハ勝訴ノ原告カ更ニ同一ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ裁判所カ若シ前判決ト同一ノ判決ヲ爲スニ付原告ニ法律上ノ利益アリト認ムルトキハ前ト同一ノ判決ヲ爲ス可ク若シ同一ノ判決ヲ爲スノ法律上ノ利益ナシト認ムルトキハ同一判決ヲ爲スノ利益ナシトノ理由ヲ以テ原告ノ請求ヲ棄却ス可キモノナリ又積極的確認ノ訴ニ於テ敗訴シタル被告カ更ラニ同一法律關係ニ付消極的確認ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ法律關係ノ存在ヲ認メタル前判決ニ反スル判決ヲ爲スコトヲ得サルモノナルヲ以テ其請求ヲ棄却ス可キモノナリ

法律カ既判力ヲ認ムルハ同一訴訟ニ付牴觸シタル判決ヲ生シ當事者間ノ權利關係ヲ不確定ノ状態ニ置クコトヲ避ケントスルモノニシテ國家ノ公益ニ關スルモノナリ故ニ當事者ハ既判力其物ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス然レトモ當事者カ判決ノ確定シタルトコロト異ル法律關係ヲ生セシムルコト

トハ之ヲ妨ケサルモノナリ蓋シ當事者ハ自己ノ私權ヲ自由ニ處分スルコトヲ得レハナリ

既判力ハ訴訟ノ本案ニ付裁判シタル終局判決ニノミ存スルモノニシテ中間判決又ハ訴訟條件ニ付爲シタル終局判決ノ如キハ既判力ヲ生スルヲ得ルモノニ非ラス

既判力ノ客觀的範圍ハ第二百四十四條ノ定ムルトコロニシテ判決ノ主文ニ包含スルモノニ限ル故ニ當事者ノ主張スル事實ニ基ク請求權又ハ法律關係ニシテ判決ノ主文ニ包含スル範圍内ニノミ既判力ヲ生スルモノトス

既判力ハ其主觀的範圍トシテ訴訟ノ當事者又ハ其一般承繼人ノ間ニノミ存スルモノニシテ判決ノ既判力カ第三者ニ及フハ例外ノ場合ナリ(五五、六二、人訴一八三九)

第九款 決定及命令

口頭辯論ニ基キ爲ス決定ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス(二四五第一項) 言渡ササル決定



及命令即チ口頭辯論ヲ經サル決定並ニ口頭辯論ヲ經又ハ經スシテ言渡サレタル命令ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス可キモノトス(二四五第三項)

第二百四十五條第二項ニ第二百三十三條及第二百三十四條ノ規定ハ裁判所ノ決定ニ之ヲ準用シ又第二百三十五條第二百三十九條第二百四十條ノ規定ハ裁判所ノ決定及裁判長並ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ニ之ヲ準用ストアレトモ決定ニ付テハ判決ニ關スル第二百三十六條ノ如キ形式ノ定メナキヲ以テ決定ハ主文ノ朗讀ニヨリテ言渡スコトヲ要スルモノト爲ス能ハス從テ第二百三十三條ノ規定ヲ決定ニ準用スル能ハス然ルニ決定ト雖モ口頭辯論ニ基クトキハ基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニ限り之ヲ爲スコトヲ要スルモノト爲ササル可カラス而シテ判決ハ口頭辯論ノ終結スル期日又ハ直チニ指定スル期日ニ於テ之ヲ言渡ス但シ其期日ハ七日ヲ過クルコトヲ得ストノ第二百三十三條ノ規定ヲ決定ニ準用スルハ相當ナルヲ以テ第二百三十三條第二百三十四條ノ規定ハ裁判所ノ決定ニ之ヲ準用ストアルハ之ヲ第二百三十二條第二百三十三條ノ規定ハ裁判所ノ決

定ニ之ヲ準用スト爲ス可ク又決定及命令ハ主トシテ訴訟指揮ニ關スルノミナラス第二百六十九條第七十條第二百九十五條第四百五十九條ノ規定ニヨリテ其裁判所等ニ於テ自ラ之ヲ取消又ハ變更スルコトヲ得ルモノトナスヲ相當トスルヲ以テ第二百四十條ノ規定ハ決定及命令ニ準用ス可キモノニ非ラス然ルニ第二百三十八條ハ決定及命令ニ之ヲ準用シ當事者ハ其送達ヲ申立ツルコトヲ得ヘク其申立アリタルトキハ決定若クハ命令ノ正本ヲ送達ス可キモノト爲ス可キナリ而シテ判決ノ言渡ハ當事者又ハ其一方ノ在廷スルト否トニ拘ハラズ其效力ヲ有ス言渡アリタル判決ニ基キ訴訟手續ヲ續行シ又ハ他ニ其判決ヲ使用スル當事者ノ權ハ法律ニ特定シタル場合ノ外相手方ニ送達スルト否トニ拘ハラストノ第二百三十五條ノ規定及判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本ニ署名捺印セサル間ハ裁判所書記ハ正本抄本及謄本ヲ付與スルコトヲ得ス裁判所書記ハ正本抄本及謄本ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證ス可シトノ第二百三十九條ノ規定ヲ決定及命令ニ準用スルハ至當ナルヲ以テ第二百三十五條第二百三十九條及第

二百四十條ノ規定ハ決定及命令ニ之ヲ準用スル旨ノ規定ハ之ヲ第二百三十五條  
第二百三十八條及第二百三十九條ノ規定ハ決定及命令ニ之ヲ準用スト爲ス可キ  
モノニシテ確定法文ノ誤謬ト認メ理論ニ從ヒ右訂正ノ如ク解スヘキモノナリト  
ハ異論ナキ說ナルカ如シ又決定命令ニ付テ第二百四十一條ノ規定ヲ準用スルコ  
トヲ得ヘキコト當然ナリ

### 第九節 闕席手續

#### 第一款 闕席判決

#### 第一 條件

原告若クハ被告口頭辯論期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ  
申立ニ因リテ闕席判決ヲ爲ス(二四六)

(一) 原告若クハ被告口頭辯論期日ニ出頭セサルコト(全部ノ懈怠)

(甲) 口頭辯論期日ノ存在

闕席判決ヲ爲スニハ必要の口頭辯論ノ爲ニスル期日ノ存在スルコトヲ要

ス而シテ其期日ハ口頭辯論ヲ爲シ判決ヲ爲シ得ヘキモノナラサル可カラ  
ス故ニ判決ノ言渡期日ニハ闕席判決ヲ爲スコトナシ又證據調期日ハ同時  
ニ口頭辯論期日ナレトモ證據調ヲ終了セサレハ辯論期日ニ入ラサルヲ以  
テ證據調未完了ノ場合ニ於テハ其期日ニハ闕席判決ヲ爲サス又受命判事  
若クハ受託判事ハ判決ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ此等ノ判事ノ面前ニ於  
テ訴訟行爲ヲ爲ス可キ期日ニハ闕席判決ヲ爲スコトナシ  
任意的口頭辯論ノ期日ニ闕席判決ヲ爲スコトアルハ例外ナリ(四七二、七五  
六) 口頭辯論期日ハ第一期日ナルト延期シタル期日ナルト續行ノ期日ナ  
ルトニ付何等ノ區別ナシ(二四九)

(乙) 當事者ノ一方出頭セサルコト

口頭辯論ノ期日ニ一方ノ當事者(又ハ其法律上又ハ訴訟代理人)ノ出頭セ  
サル場合ニ於テ始メテ闕席判決ヲ爲シ得ヘキモノトス假令出頭スルモ辯  
論ヲ爲ササルトキ又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタルトキハ出頭セサルモ

ノト看做サル(二五〇)原告若クハ被告カ本案ノ辯論ヲ爲シタルトキハ假令各箇ノ事實、證書又ハ發問ニ付陳述ヲ爲サス又ハ任意ニ退廷スルモ闕席判決ヲ爲スコトヲ得ス(二五二)通常ノ判決ヲ爲ス可キモノトス

(二) 出頭シタル當事者ノ申立

闕席判決ハ出頭シタル當事者ノ申立アルニアラサレハ之ヲ爲サス當事者カ之ヲ申立テサレハ訴訟ハ休止ス蓋シ出頭スルモ申立ヲ爲ササレハ出頭セサルモノト看做サルルヲ以テナリ(二五〇、一八八第二項)尤モ辯論ノ延期ヲ申立テ、訴ノ取下、請求ノ拋棄若クハ認諾ヲ爲セハ夫レ夫レ其效果ヲ生スルコト勿論ナリ

(甲) 闕席判決ノ申立ヲ却下スル場合

左ノ場合ニ於テハ闕席判決ノ申立ヲ却下ス然レトモ出頭シタル原告若クハ被告ハ口頭辯論ノ延期ヲ申立ツルコトヲ得(二二二第二項)

(イ) 出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査ス可キ事情ニ付

必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキ

(ロ) 出頭セサル原告若クハ被告ニ口頭上事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサルトキ

辯論ヲ延期シタルトキハ出頭セサル原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出ス可キモノトス(二五二第二項) 闕席判決ノ申立ヲ却下シタルニ拘ハラズ辯論ノ延期ヲ申立テサルトキハ訴訟ハ休止ス

闕席判決ノ申立ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノニシテ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得、其決定ヲ取消シタルトキハ出頭セサリシ原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出サスシテ闕席判決ヲナス(二五三)

(乙) 闕席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期スル場合

裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ闕席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期スルコトヲ要ス(二五四第一項)

(イ) 出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレサリシトキ

(ロ) 出頭セサル原告若クハ被告カ天災其他避ク可カラサル事變ノ爲ニ  
出頭スル能ハサルコトノ眞實ト認ム可キ事情アルトキ

出頭セサリシ原告若クハ被告ハ新期日ニ呼出ス可キモノニシテ (二五四第  
二項) 此場合ニ前期日ニ出頭セシ者又ハ出頭セサリシ者何レカ闕席スレ  
ハ更ニ闕席手續ヲ開始ス

### 第二 判決ノ内容

#### (一) 原告闕席ノ場合

出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判所ハ闕席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言  
渡ス可キモノトス(二四七)闕席判決ハ當事者ノ懈怠ノ結果ニ基クモノナルヲ  
以テ原告闕席シタル場合ニ於テモ職權調査ノ結果訴訟條件ノ欠缺アルモノ  
ト認ムル場合ノ如キハ對席判決ヲ以テ訴ヲ却下ス可キモノニシテ闕席判決  
ヲ以テ訴ヲ却下スヘキモノニ非ラス  
訴却下ノ闕席判決ハ本案ノ判決ナルヲ以テ其判決ノ確定シタルトキハ既判

カラ生スルモノナリ

#### (二) 被告闕席ノ場合

出頭セサル一方カ被告ナルトキハ裁判所ハ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述  
ヲ自白シタルモノト看做シ其事實ニ基ク原告ノ請求ヲ正當トスルトキハ闕  
席判決ヲ以テ被告ノ敗訴ヲ言渡ス可キモノトス(二四八前段)然レトモ原告カ  
口頭ヲ以テ供述スル事實ニ基キ法律上原告主張ノ如キ請求權ヲ發生セサル  
トキハ對席判決ヲ以テ原告ノ訴ヲ却下ス可キモノトス(二四八後段)

證書訴訟、爲替訴訟ニ於テモ闕席手續ノ適用アレトモ此訴訟ニ於テハ書證  
ノ提出ノミニヨリテ原告ハ總テノ事實ヲ證明セサル可ラサルヲ以テ被告カ  
原告ノ供述スル事實ヲ總テ自白シタルモノトシテ直ニ闕席判決ヲ爲スコト  
ヲ得ス證書ノ成立ニ付テノ原告ノ口頭供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト  
看做シ更ニ其證書ノ實體的證據力ヲ判斷シテ相當ノ判決ヲ爲ササル可ラス  
而シテ其證書ニヨリテ請求ノ原因タル事實カ證明セラレ且其事實ニ基ク請

求ノ正當ナル場合ニ於テ始メテ闕席判決ヲ以テ被告ニ敗訴ノ言渡ヲ爲ス可キモノトス

人事訴訟ニ於テハ自白ノ效力ヲ認メス故ニ被告ニ對スル闕席判決ナシ(人訴一一第二、三項、二六、三九第一項、五九)

原告ノ訴ノ不適法ナル場合ニ於テハ對席判決ヲ以テ原告ノ訴ヲ却下ス可キコトハ重ネテ説明スルヲ要セス

### 第二款 故障

#### 第一 故障ノ意義及管轄

故障ハ懈怠ノ結果ヲ除却シ新辯論ニ基キ判決ヲ受ケンコトヲ求ムル申立ナリ故ニ故障ハ期日ヲ懈怠シタル者ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得ルモノニシテ又期日ヲ懈怠シタル者ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルノミニシテ控訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス但シ後ニ述フル新闕席判決ノ場合ハ此限ニアラス(二五五第一項、三九八)故障ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ屬シ上級裁判所ノ管

### 轄ニ屬セス

#### 第二 故障ノ期日及方式

故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ不變期間ニシテ闕席判決ノ送達ヲ以テ始マル(二五五第二項)然レトモ控訴及上告ト異リ不服ノ申立ニ非ラサルヲ以テ判決ノ送達ニヨリテ其意思ヲ決セシムルノ必要ナキカ故ニ故障ハ闕席判決ノ送達前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(二五五第三項)

闕席判決ノ送達ヲ外國ニ於テ爲ストキ又ハ公ノ告示ヲ以テ爲ス可キトキハ裁判所ハ闕席判決ニ於テ故障期間ヲ定メ又ハ後日決定ヲ以テ之ヲ定ム可キモノニシテ此決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得(二五五第四項)

故障ノ申立ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲ス而シテ此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(二五六第一、二項)

- 一 故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示
- 二 其判決ニ對スル故障ノ申立

本案ニ付テノ口頭辯論ノ準備ノ爲ニ必要ナル事項アルトキハ此書面ニ掲ク可  
キモノトス(二五六第三項)

判然許スカラサル故障又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過  
後ニ起シタル故障ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可キモノトス而シテ此却  
下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(二五七)

第三 故障ノ效果

裁判長カ命令ヲ以テ故障ヲ却下セサルトキハ裁判所ハ故障申立ノ書面ヲ相手  
方ニ送達シ且故障ニ付口頭辯論ノ新期日ヲ定メ當事者ノ雙方ヲ呼出ス可キモ  
ノトス而シテ其期日ハ同時ニ本案ノ辯論期日ナリ(二五八)

此辯論期日ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス可キヤ否ヤ、法律上ノ方  
式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ故障ヲ申立テタリヤ否ヤヲ調査ス可キモノニシ  
テ若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ故障ヲ不合法トシテ棄却ス可キモノトス(二五  
九) 而シテ故障ノ適法ナルトキハ其旨ノ中間判決ヲ爲シテ本案ノ辯論ヲ爲シ

又ハ故障適法ノ判斷ヲ本案ノ終局判決ノ理由中ニ掲クルコトトシテ直ニ本案  
ノ辯論ヲ爲サシムルコトヲ得可キモノニシテ裁判所ニ於テ故障ヲ適法ナリト  
認ムルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ復シ闕席判決前ノ訴訟材料ノ提供中間判  
決等ハ復活スルニ至ルモノトス(二六〇)故ニ裁判所ハ闕席判決ニ羈束セラルル  
コトナク手續ヲ續行シテ闕席判決前ヨリノ訴訟材料ニヨリテ新シキ判決ヲ爲  
ス可キモノトス、訴訟カ闕席前ノ程度ニ復スルモ闕席判決ハ當然其效力ヲ失  
フモノニアラサルヲ以テ之ニ基キ強制執行ヲ爲スヲ得ルコト勿論ナリ(五一二)

新辯論ニ基キ爲ス可キ判決カ闕席判決ト符合スルトキハ闕席判決ヲ維持スル  
旨ヲ言渡シ其符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄シ更ニ相  
當ノ判決ヲ爲ス可キモノナリ(二六一)

新辯論ニ基キ爲ス可キ判決カ闕席判決ニ符合スルトキハ闕席ニ因リテ生シタ  
ル費用モ亦闕席判決維持ノ中ニ包含セラルレトモ闕席判決ヲ廢棄シタル場合  
ニ於テ闕席判決カ適法ニ爲サレタルトキハ闕席ニ因リテ生シタル費用ハ相手

方ノ不當ナル異議ニ因リテ生セサルモノニ限り其闕席シタル原告若クハ被告ノ負擔トス可キモノナリ(二六二)

故障ヲ申立テタル原告若クハ被告カ故障ニ付テノ口頭辯論期日又ハ其辯論延期ノ期日ニ出頭セサルトキハ第二百五十二條及第二百五十四條ニ規定シタル場合ヲ除ク外出頭シタル相手方ノ申立ニヨリ故障ヲ棄却スル新闕席判決ヲ爲ス可ク此新闕席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得サルモノニシテ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限り控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(二六三第二項、三九八)

新闕席判決ヲ爲ストキハ訴却下ノ闕席判決ニ對スル故障ヲ棄却スル場合ノ外假執行ノ宣言ヲ爲ス可キモノナリ(五〇一第三號)

故障カ不適法ナルトキハ故障ヲ申立テタル者ノ闕席シタルトキト雖モ故障ヲ不適法トスル對席判決ヲ爲ス可キモノトス

第四 故障ノ拋棄及取下

故障ノ拋棄トハ故障申立前ノ故障申立權ノ拋棄ニシテ闕席判決言渡後ノ故障拋棄ハ訴訟上ノ效力ヲ生スルモノトス故障ノ取下ハ故障申立後ノ故障申立權ノ拋棄ナリ、故障ノ拋棄及取下ニ付テハ控訴ノ拋棄及取下ノ規定ノ準用アリ(二六四、三九九)

第三款 闕席手續ノ規定ノ準用

闕席判決ニ關スル規定ハ反訴又ハ既ニ原因ノ確定シタル請求ノ數額ノ定メヲ目的物トスル訴訟手續ニ之ヲ準用シ尙ホ中間訴訟ノ辯論ノ爲メ期日ヲ定メタルトキハ其ノ闕席訴訟手續及闕席判決ハ其中間訴訟ヲ完結スルニ止マリ之ヲ準用ス(二六五)

## 第二章 區裁判所ノ訴訟手續

### 第一節 通常ノ訴訟手續

區裁判所ノ通常ノ訴訟手續ニ付テハ區裁判所ノ構成又ハ第一編及ヒ左ノ特則ニヨリ差異ノ生セサル限リハ地方裁判所ノ訴訟手續ニ付テノ規定ノ適用アリ(三七三)

#### 第一 訴提起前ノ和解

訴ヲ起サントスル者ハ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出ス可キコトヲ申立ツルコトヲ得ルモノニシテ其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得、當事者雙方出頭シテ和解ノ調ヒタルトキハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可キモノトス(三八一第一、二項) 此調書ハ強制執行ノ債務名義トナル(五五九第三號) 此相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ此カ爲ニ生シタル費用ハ訴訟費

用ノ一分ト看做ス(三八一第四項)

#### 第二 起 訴

起訴ハ訴狀ノ差出ニヨル外左ノ如ク口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(一) 第一ニ述ヘタル和解ノ調ハサルトキハ當事者雙方ノ申立ニヨリ其訴訟ニ付直ニ辯論ヲ爲ス、此場合ニ於ケル訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲スモノトス(一八一第三項)

(二) 當事者カ裁判所ニ出頭シテ口頭ヲ以テ起訴ヲ爲シタルトキハ裁判所書記ハ之ニ付調書ヲ作成ス可キモノニシテ(一三五)此調書ハ訴狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルヲ以テ此調書ニハ訴狀ノ要件ヲ具備セサル可カラズ(三七四)

(三) 當事者ハ通常ノ裁判日ニ於テハ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付辯論ヲ爲スコトヲ得、此場合ニ於テハ口頭ノ演述ニヨリ起訴ノ效力ヲ生ス(三七八)



### 第三 準備書面

起訴アリタルトキハ裁判所書記ハ訴狀ヲ被告ニ送達スル手續ヲ爲ス可キモノナレトモ準備書面ノ交換ハ之ヲ爲スコトヲ要セス(三七五)然レトモ原告若クハ被告ハ其申立及事實上ノ主張ニシテ豫メ通知スルニ非サレハ相手方ニ於テ之ニ對シ陳述ヲ爲シ得ヘカラサルモノヲ口頭辯論ノ前直接ニ相手方ニ通知スルコトヲ得(三七六)

### 第四 應訴期間

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ時間ヲ存スルコトヲ要スレトモ急迫ナル場合ニ於テハ此時間ヲ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得、送達ヲ外國ニ於テ爲ス可キトキハ事情ニ應シテ時間ヲ定ム可キコト勿論ナリ(三七七)

### 第五 口頭辯論

數箇ノ妨訴抗辯ヲ本案ノ辯論前同時ニ提出ス可キ旨ノ第二百六條第一項ノ規

定ハ裁判所管轄違ノ抗辯ニ限り其適用アリ(三七九第一項) 被告ハ妨訴抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ム權ナシ然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ右抗辯ニ付分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得(三七九第二項)

區裁判所ノ手續ニ在リテハ判決ヲ受ク可キ事項ノ申立及重要ノ陳述ト雖モ書面ニ基クコトヲ要セス、然レトモ裁判所ノ意見ニ從ヒ訴訟關係ヲ十分ニ明確ナラシムル爲メ必要ナルモノニ限り當事者ノ申立及陳述ハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ナラシム可キモノトス(三八〇)

計算事件、財産分割事件及之ニ類スル訴訟ニ付テモ區裁判所ハ準備手續ヲ命スルコトヲ得サルコトハ準備手續ノ性質上當然ナリ故ニ區裁判所ノ手續ニハ第二百六十六條乃至第二百七十二條ノ規定ノ適用ナシ

### 第二節 督促手續

一定ノ金額ノ支拂、代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ爲ス可キ義務ヲ有スル者カ債權者ニ對シテ其義務ヲ履行セサルハ必スシモ債務者カ債權者ノ

權利ヲ爭フトキニ限ラス或ハ不注意ニヨル場合アリ或ハ資力ニ乏シキニヨル場合アリ或ハ單ニ履行ヲ遅延セントスルニヨル場合アリ而シテ此ノ如キ場合甚タ多シ此ノ如キ場合ニ於テ債權者ハ債務名義ヲ得テ強制執行ヲ爲スノ必要アラシモ通常訴訟手續ニヨリ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ受ケサル可カラサルモノトセハ債權者ハ費用ト時間トヲ用キルコト少シトセス故ニ債權者ヲシテ僅少ノ費用ヲ以テ債務名義ヲ得セシムル必要アリ之レ督促手續ヲ設ケタル所以ナリ故ニ一定ノ金額ノ支拂、代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求權ヲ有スル者ハ通常訴訟手續ニ依ラスシテ督促手續ニ依リ條件附ノ支拂命令ヲ債務者ニ對シ發センコトヲ申立ツルコトヲ得(三八二第一項) 即チ其命令ニヨリテ債務者ハ十四日又ハ之ヲ短縮シタル期間内ニ請求ヲ満足セシメ及手續ノ費用ヲ債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲ササレハ債務者ハ直ニ強制執行ヲ受クルニ至ルモノトス(三八六、三九三、三九四、五五九第二號)

第一 督促手續ニ依ルコトヲ得ヘキ場合

(一) 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナルコト(三八二第一項)

其他ノ請求ニ付テハ督促手續ヲ許ササレトモ苟クモ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナル以上ハ其請求ノ發生原因ノ如何ハ問ハサルモノナリ故ニ例ヘハ契約ニヨル場合ニテモ不當利得ニヨル場合ニテモ不法行爲ニヨル場合ニテモ遺言ニヨル場合ニテモ督促手續ニ依ルコトヲ許スモノトス

(二) 申請者カ反對給付ヲ爲サスシテ其請求ヲ主張シ得ルコト(三八二第二項) 申請ノ趣旨ニヨレハ申請者反對給付ヲ爲スニ非ラサレハ其請求ヲ主張スルコトヲ得サルトキハ督促手續ヲ許サス、申請者カ既ニ反對給付ヲ爲シ終リタルトキハ此手續ヲ許スコト勿論ナリ

(三) 支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ又ハ公示送達ヲ以テ爲ス可キモノニ非ラサルコト(三八二第二項)

支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲ス可キトキハ督促手續ヲ許サス

第二 支拂命令ノ管轄

支拂命令ハ區裁判所之ヲ發スルモノニシテ此命令ハ第一審ノ事物管轄ノ制限ナキモノト看做シ請求ノ金額又ハ價額五百圓ヲ超過スルト否トヲ問ハス通常ノ訴訟手續ニ於ケル訴ノ提起ニ付普通裁判籍又ハ不動産上ノ裁判籍ノ屬ス可キ區裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトス(三八三)

第三 支拂命令申請ノ方式

支拂命令ヲ發センコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ其申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(三八四)

- 一 當事者ノ表示
- 二 裁判所ノ表示
- 三 請求ノ一定ノ數額 目的物及原因ノ表示、若シ請求ノ數箇ナルトキハ其各

箇ノ一定ノ數額、目的物及原因ノ表示

四 支拂命令ヲ發センコトノ申立

支拂命令ノ申請ニ印紙ノ貼用ヲ要スルコト勿論ナリ(民訴印紙法六、一一)

第四 支拂命令ノ申請ノ效力

支拂命令ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ其申請ヲ調査シ其申請力前記第一乃至第三ノ要件ニ適合セサルカ又ハ右ノ要件ニ適合スルモ其申請ノ旨趣ニ於テ請求ノ理由ナク又ハ現時其理由ナキコトノ顯ハルルトキ若クハ請求ノ一分理由ナキトキハ其申請ヲ却下ス可キモノナリ然レトモ數箇ノ請求中或ルモノニ理由ナクシテ他ノモノニ理由アリト見ユルトキハ其理由アリト見ユルモノニ限り申請ヲ許容ス可キモノトス、而シテ右却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サレトモ通常ノ訴訟手續ニ依リ訴追スルヲ妨ケス(三八五)

申請カ適法ニシテ其請求カ理由アルトキハ裁判所ハ債務者ヲ審訊セスシテ支拂命令ヲ發ス可キモノニシテ其命令ニハ第三百八十四條第一號及第二號ノ要

件ノ外即時ノ強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ請求ヲ満足セシメ及其手續ノ費用ニ付定ムル數額ヲ債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ノ債權者ニ對スル命令ヲ記載ス可キモノトス而シテ右ノ期間ハ手形上ノ請求ニ付テハ二十四時間、其他ノ請求ニ付テハ申立ニ依リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得(三八六)支拂命令ハ職權ヲ以テ之ヲ送達ス可キモノニシテ其送達ハ之ヲ債權者ニ通知ス可キモノトス(二四五第三項、三八七第二項)

### 第五 支拂命令ノ效力及異議

支拂命令ヲ送達シタルトキハ其時ヨリ權利拘束ノ效力ヲ生ス(三八七第一項)支拂命令ノ送達ヲ受ケタル債務者ハ其命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(三八八)債務者カ請求ノ全部又ハ一分ニ對シテ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルトキハ支拂命令ハ其效力ヲ失フモノナレトモ權利拘束ノ效力ヲ存續ス數箇ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ

其他ノ請求及之ニ相當スル費用ノ部分ニ付其效力ヲ失ハサルモノナリ(三八九)異議ハ支拂命令ニ記載シタル(十四日又ハ之ヲ短縮シタル)期間内ニ限り之ヲ申立ツルコトヲ要スルカ如キモ其期間ノ經過後ニ於テ執行命令ヲ發スルコトヲ得ル趣旨ナレハ執行命令ヲ發セサル間ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス(三九三但書)適法ナル異議ノ申立アリタルトキハ請求ニ付起ス可キ訴力區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其認ハ支拂命令ノ送達ト同時ニ區裁判所ニ之ヲ起シタルモノト看做サルルモノナレハ裁判所ハ第三百七十七條ノ規定ニ從ヒテ口頭辯論期日ヲ定メテ當事者ヲ呼出ス可キモノナリ(三九〇)然レトモ請求ニ付起ス可キ訴力地方裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ場合ニ於テハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタルコトヲ債權者ニ通知ス可キモノニシテ債權者其通知書ノ送達アリタル日ヨリ起算シ一ヶ月ノ期間内ニ管轄地方裁判所ニ訴ヲ起ササルトキハ權利拘束ノ效力ヲ失フモ(六三九)右ノ期間内ニ管轄地方裁判所ニ訴ヲ起シタルトキハ其權利拘束ハ支拂命令ノ送達ノ時ヨリ繼續スルコトトナル

督促手續ノ費用ハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタル場合ニ於テハ起ス可キ訴訟ノ費用ノ一分ト看做スモノナレトモ適當ナル期間内ニ訴ヲ起ササルトキハ債權者ノ負擔ニ歸ス(三九二)

執行命令ヲ發シタル後ニ申立テタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可キモノニシテ此却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノナリ(三九五)從テ執行命令ニ對シ故障ヲ申立テテ救濟ノ道ヲ講スルノ外ナシ

### 第六 執行命令

支拂命令ニ對シ債務者ヨリ異議ヲ申立テサルトキハ其命令中ニ掲ケタル期間ノ經過後債權者ノ申請ニ因リ之ヲ假ニ執行シ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得此假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以テ之ヲ爲スモノニシテ其執行命令ニハ債權者ニ於テ計算スル手續ノ費用ヲモ掲ク可キモノトス(三九三第一、二項)

裁判所カ調査ノ結果債權者ノ申請ヲ不當ト認メタルトキ即チ未タ支拂命令中

ニ掲ケタル期間ヲ經過セサルトキ又ハ債權者ノ申請前債務者ヨリ支拂命令ニ對シテ異議ノ申立アリタルトキハ債權者ノ申請ハ之ヲ却下ス可キモノニシテ却下ノ決定ニ對シテ債權者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(二九三第三項)

執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ト同一ナリトス故ニ之ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得レトモ(五五九第二號) 執行命令ニ基クトキハ債權者又ハ債務者ニ承繼アリタル場合ノ外ハ執行文ノ付與ヲ要セス(五九一第三項) 執行命令ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ送達ス可キモノニシテ(二四五第三項) 債務者ハ普通ノ闕席判決ニ對スルト同様第二百五十五條乃至第二百六十四條ノ規定ニ從ヒテ故障ヲ申立ツルコトヲ得此故障ハ常ニ執行命令ヲ發シタル區裁判所ニ之ヲ爲ス可キモノニシテ故障ノ申立アリタルトキハ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其區裁判所ハ單ニ故障ニ付テノミナラス本案ニ付テモ亦裁判ヲ爲ス可キモノナレトモ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノナルトキハ區裁判所ハ其故障ノ適法ナリヤ否ヤニ付テノミ辯論及裁判ヲ爲ス可キモノニ

シテ故障カ不適法ナルトキハ終局判決ヲ以テ故障ヲ却下ス可ク故障カ適法ナルトキハ終局判決ヲ以テ執行命令ヲ廢棄シ故障ノ適法ナル旨ヲ宣言ス可キモノトス故ニ債權者ハ第三百九十一條第二項ノ期間内ニ管轄地方裁判所ニ訴ヲ提起セサルヘカラサルコトナル此場合ニ於テハ右ノ期間ハ故障ヲ適法ナリトスル判決ノ確定ヲ以テ始マル(三九四)

### 民事訴訟法(第二編) 畢

大正十一年十一月廿五日 印刷

大正十一年十一月三十日 發行

民事訴訟法(第二編)

定價金 貳圓

著作權所有

著者

岩本勇次郎

發行者

波多野重太郎

印刷者

大杉直次郎

發兌元

東京神田仲猿樂町  
電話(二二五四番)  
九段(二六七六番)

巖松堂書店

關西發賣所  
滿鮮發賣所

大阪市北區  
曾根崎上三丁目  
朝鮮東京二丁目  
本町

電話北一六五三番  
振替大阪三一六九七二  
電話本局二一六六番  
振替京城二四五四番

巖松堂大阪店  
巖松堂京城店

Madagascar

Grassier

8

1/2

Specimen

1/2

502  
175



終